

中海エコ活動レポート

中海の環境改善と賢明利用に関する情報誌の発行！

中海の環境改善及び賢明利用を促進するために、鳥取・島根両県の連携を強化するとともに、両県の行政機関、NPO、地域住民団体などの取り組みを総合的に情報提供することで、NPO、地域住民団体などが一体となった、より一層の活動を促進するために、鳥取・島根両県が連携して、この情報誌を発行いたしました。

今後も、中海の環境改善・賢明利用の様々な取り組み・活動を紹介していくこととしております。

崎津住宅団地(米子市)

鳥取・島根両県の連携事業の紹介

平成17年のラムサール条約湿地への登録、鳥取・島根両県知事による確認書の取り交わしなどの背景もあり、中海に関する環境改善などの問題に対して今まで以上に、鳥取県と島根県は連携して取り組んでおります。

この連携した取り組みを、今回はご紹介します。

中海エコ活動レポート

今年度から新たに発行するもので、このリーフレットのことです。

沿岸市町やNPO、地域住民団体などへ配布しております。

中海・宍道湖一斉清掃

ラムサール条約湿地への登録を記念して、2006年度から中海沿岸の市町、地域住民と協働で、年1回、一斉に中海湖岸の清掃活動を行っております。

2006年度は松江市八束町で記念セレモニーを、2007年度は米子市で開始式が、いずれも両県知事が出席して行われました。

■これまでの実績

○2006年度

参加人数：5,924人

ゴミの量：19.92 t

○2007年度

参加人数：5,728人

ゴミの量：16.28 t



(2007年度の一斉清掃風景)

みんなで調べる中海流入河川調査

島根県で行っていた小・中学生による身近な河川の水質調査が「第1回中海水質改善対策協議会」で島根県から紹介があり、鳥取県側でも平成19年度から始まりました。



参加している小・中学生は、水質調査を自ら行うことで、水の大切さを学習しています。

■内容

調査者：小・中学生

調査地点：中海に流入する河川

調査内容：気温、水温、COD、透視度など

湖沼環境モニター

こちらも「第1回中海水質改善対策協議会」で島根県から紹介があったもので、平成19年度から鳥取県側でも始まりました。

これにより、中海一円をカバーする両県県民による調査となりました。

■内容

調査者：県民モニターの方々(応募)

調査地点：鳥取県 5地点、島根県 6地点

調査内容：人の五感(見る・聞く・触れる・臭う・味わう)により湖沼の環境を評価
COD(簡易検査)

中海は斐伊川水系の下流に位置する閉鎖的な汽水湖であり、赤潮や青潮の発生など富栄養化現象が確認され、水質も横ばい傾向にあります。

また湖岸域では人工的な改変が進み、かつてあった浅場の多くが消失し、アマモやコアマモなどをはじめとする海藻草類が繁茂し、様々な生き物を育てていた環境が失われています。

このように様々な課題のある中海の水環境改善に向けては、



浅場造成実施箇所（東出雲町下意東）

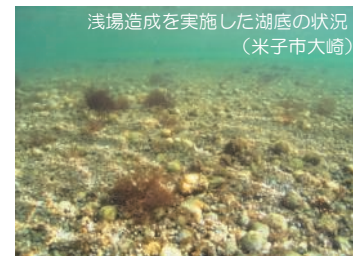


浅場造成実施箇所（東出雲町下意東）

湖に流入する負荷を抑える下水道整備などの流域対策を行っていくことはもちろんですが、湖内の浄化対策として国土交通省ではかつての中海が有していた浅場の水質浄化機能に着目した「浅場造成」を実施しています。

浅場には、透明度の向上や貧酸素の改善、水質浄化の効果を持った生物の生息生育空間を確保する機能があり、浅場を造成することで中海の水質浄化機能の回復を図っていきます。

事業の実施にあたっては、住民・漁業者や専門家の方々などの情報の共有や連携を図り、効果がより持続・発展することを目指しながら進めています。

浅場造成を実施した湖底の状況
(米子市大崎)

中海沿岸市町の取り組み

米子市

～中海の現状を湖上から観察～

中海の自然や水質を体感し、身近な環境について考えてもらう目的で、平成7年から夏休みの8月上旬に「中海湖上観察学習会」を実施しています。

この学習会には、米子市内の小学校23校の5、6年生の児童約百人が参加し、湖水の比重、PH(水素イオン濃度指数)、汚れの度合を示すCOD(化学的酸素要求量)、水中の酸素量を表すDO(溶存酸素)等を調査するとともに湖底のヘドロをとり、にごった色や悪臭を嗅いでもらい、中海の水質等を体感してもらっています。

参加小学生は、「ドロはドブのにおいでとてもくさく、改善のため、自分たちでできることをしたい。」と話していました。

今後、このような取り組みを継続し、将来を担う子どもたちに環境の大切さを考えてもらうとともに、環境保全活動に結び付けてもらいたいと考えています。



境港市

境港市は、ラムサール条約湿地に登録された「中海」の水質浄化対策を推進するため、台所用ろ過袋の推奨、中海側の地域を対象とした、合併処理浄化槽設置整備への補助をはじめ、家庭や学校給食から出る廃食用油を回収し、BDFを製造して全量をごみ収集車の燃料として利用する取組などを行っています。

一方、今年8月には児童の時から、環境への関心を高めよう、中海・境水道・美保湾を海上から体験し、バックテスト、透明度調査などで身近な水環境の現状や自分たちに出来ることを学んでもらうための環境学習会を実施しました。

また、市内のNPO法人が取り組んでいる、アマモ場造成による、漁業資源の保護や多様な生物の生息域の創設、海の浄化機能の向上等を図る活動への支援も行っています。



松江市

子供たちに中海の環境について知ってもらうことを目的とした体験学習「いただく中海の恵み」(市環境保全課主催)が美保閘支所で開催され、本庄小学校の児童19名が参加しました。

講師の品川明・学習院女子大教授のもと、児童は支所裏の中海に入って生息する様々な生き物を取り、ルーペなどを使って熱心に観察していました。

児童の一人は、「たくさんの生き物が取れて楽しかった。中海を大切にしたい」と話していました。



安来市

安来市は、中海圏域のほぼ中央に位置し、山・川・平野・海の全てを持つ、自然環境に恵まれた地域です。この豊かな自然環境を守るため、毎年6月に、自治会、事業所、市民団体によるクリーンアップ安来デーを実施し、道路、河川、中海湖岸などの環境美化活動に取り組んでいます。今年度は市民5,468人、226団体の参加があり、約5トンのごみを回収しました。

また、地区協議会、市民団体などが実施している河川清掃活動や、企業、ボランティア団体が参加している中海アダプトプログラムの中海湖岸のゴミ回収にも協力し、EM水質浄化、下水路清掃対策と併せた水環境改善への取り組みを行なっています。



東出雲町

中海の南に位置し、美保神社の彦ひす様が揖屋神社(揖屋町)の姫に会うため、中海を渡っていたという神話が残るまち・東出雲町。雄大な大山を望む意東海岸には、地域住民の手でふれあい広場が整備され、子どもエコクラブにより、長年中海の水質調査が行われています。

いつの時代も中海とともにくらし続けてきた私たちは、今後も中海の環境を守り・育み続けたいと思っています。

地域の住民活動のご紹介

中海自然再生協議会

この協議会には実行可能な自然再生計画をつくる、という重大な任務が課せられています。また、その効果を検証するのも我々に責任があります。この協議会は役所がつくった計画案について意見を出し合う審議会では決してありません。ましてや住民運動の延長でもありません。

中海の環境をここに住むわれわれと未来のために再生する・・・この信念は絶対にぶれないようにしなければなりません。どうやって、どこまで再生するのか、基本計画を練り上げる中で共通の目標に向かうベクトルを確認し、共有していきたいと思えます。

中海のことは日本中誰でも知っています。そして、この協議会については日本中が注目しています。民学官一体となつて、この歴史的な事業を是非成功させましょう。

■詳しくは、ホームページを御覧ください。
<http://nakaumi-saisei.sakura.ne.jp/>



中海再生プロジェクト

中海再生プロジェクト（平成19年5月NPO法人化）は、一つの宣言文に賛同した皆さんが「10年で泳げる中海を取り戻す」を目標に、平成14年2月に発足しました。

当会は、これまでに3つの事業を行っています。多くの市民に中海を肌で感じてもらう「中海体験クルージング」。「中海アダプトプログラム」は中海湖岸の決められた範囲を様々な団体が責任を持って清掃するもので、現在約70団体が登録されています。

そして「中海未来マップ制作」です。これは“未来の中海の活用法”を考える事業です。私たちは「中海を活用することなく今日まで来ました。中海には食の豊かさ、夕日の美しさなど、まだまだ可能性（活用法）があります。当会では今、多くの市民の皆さんと一緒に「未来の中海」を考えています。これこそが「先人から受け継いだ貴重な財産」を「未来に伝える」方法だと思っています。皆さんも一緒に考えてみませんか、「未来の中海」を。

■ホームページ <http://gozura101.chukai.ne.jp/nakaumi/>

中海物語 宣言

宣言。
 中海。
 それは先人から受け継いだ貴重な財産。
 かつては豊かな漁獲量を誇った汽水湖群であった。
 日本全土を見渡しても、このような自然体系はあまり見られない。
 しかし、私達はその中海に対し、背を向けて現代を生きてきたかもしれない。

私達は、この中海が市民一人一人にとってかけがえない貴重な財産であることを再認識し、この中海の豊かな自然環境を街の活性化にいかし、さらに市民の憩いの場として共生できるように、そしてこの中海が、郷土の象徴として誇れるよう努力することを、今、ここに宣言します。

平成14年1月4日

中海テレビ放送 中海物語出演者一同

自然再生センター

自然再生センターは、「米子湾の自然再生をめざした勉強会」の参加者をベースに、島根大学教員をはじめとする専門家、環境NPOなどで活動されている方々、一般市民の方々が集まり、行政機関の方々の協力を得ながら設立されました。



自然再生センターでは、中海・宍道湖及びその流域を実践の場として自然再生に取り組むと共に、その他の地域も含め、失われた自然環境を取り戻すための諸活動を行います。

- ・大学の知識とノウハウの活用
 自然再生センターには島根大学教員をはじめとする多様な専門家が参加しています。大学に蓄積されている多くの知識とノウハウが利用できます。
- ・地域の自然環境・資源の活用
 山陰地域には良好な自然環境が多く残されていると共に、中海・宍道湖など再生をめざす自然環境も多くあります。これらの自然環境や資源を使った取り組みができます。

■詳しくは、ホームページを御覧ください。
<http://www.sizen-saisei.org/>

イベント・活動カレンダー

月	日	活動予定
1	1(火)	初日の出！コハクチョウ観察会 問合せ先 米子水鳥公園 (0859)24-6139
	1(火)~ 4(金)	どんぐりコマ回し大会 問合せ先 米子水鳥公園 (0859)24-6139
	~4(金)	フェザーカービングと野鳥の羽根展 問合せ先 米子水鳥公園 (0859)24-6139
	6(日)	水鳥の絵を描く会Ⅱ 問合せ先 米子水鳥公園 (0859)24-6139
	26(土)	宍道湖からめぐる里地里山バードウォッチングバスツアー (事前申込制) 問合せ先 宍道湖グリーンパーク (0853)63-0787
2	27(日)	ゴビウス生きもの図鑑をつくってみよう！ 問合せ先 宍道湖自然館ゴビウス (0853)63-7100
	下旬	第2回中海の再生と賢明利用を考える会 問合せ先 鳥取県西部総合事務所 (0859)31-9350
	1(金) ~29(金)	水鳥の絵画コンクール作品展 問合せ先 米子水鳥公園 (0859)24-6139
	3(日)	写真家・久野啓氏講演会「タカの渡りから考える里山の今」 (事前申込制) 問合せ先 宍道湖自然館ゴビウス (0853)63-7100
	~4(月)	冬の特別展「里山のススメ」 問合せ先 宍道湖自然館ゴビウス (0853)63-7100
3	9(土)	オナガガモのプロポーズ大作戦 問合せ先 米子水鳥公園 (0859)24-6139
	17(日)	ウェットランド・デー企画「湿地の生き物を粘土で作ろう！」 問合せ先 米子水鳥公園 (0859)24-6139
	24(日)	シラウオの体を調べよう！ 問合せ先 宍道湖自然館ゴビウス (0853)63-7100
	下旬	ラムサール条約と賢明な利用を語る会 第8回 問合せ先 島根県自然環境課 (0852)22-6097
	上旬	第3回中海の再生と賢明利用を考える会 問合せ先 鳥取県西部総合事務所 (0859)31-9350
	8(土)	中海自然再生協議会 問合せ先 自然再生センター (0852)21-4882
	8(土)	コハクチョウの北帰行観察会 問合せ先 米子水鳥公園 (0859)24-6139
16(日)	鳥のピンブローチ作り 問合せ先 米子水鳥公園 (0859)24-6139	
23(日)	かわいい両生類・爬虫類に親しもう！ 問合せ先 宍道湖自然館ゴビウス (0853)63-7100	

島根県立宍道湖自然館ゴビウス

- 汽水をメインテーマにした体験学習型水族館
- 島根県の川や湖に生息する生きもの約180種類9000点を展示。お子さまから大人の方まで楽しんでいただける「遊び、学ぶ、いやし」の水族館です。
- 愛称の「ゴビウス」とは、ラテン語で「小魚」という意味があるほか、生物の世界共通の名前である学名では「ハゼ科」の総称として用いられています。



■ アクセス

- 一畑電鉄「湖遊館新駅」より徒歩10分
- 出雲空港より車で10分
- 山陰道「宍道IC」より車で12分



■ 連絡先

島根県立宍道湖自然館
島根県出雲市園町沖の島1659-5
TEL : (0853)63-7100
FAX : (0853)63-7101
Homepage :
<http://www.gobius.jp/>

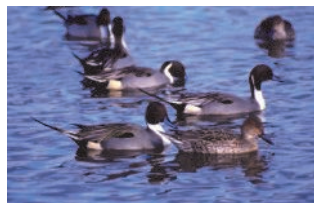
米子水鳥公園

- 昭和の国引きといわれた、中海干拓事業において、干拓途中にできた池に、コハクチョウ・マガンなど、たくさんの野鳥が飛来するようになり、この水鳥を守るため、米子水鳥公園が誕生しました。
- 米子水鳥公園は、望遠鏡を使って、室内から野鳥の観察ができます。
- 米子水鳥公園は、西日本最大のコハクチョウの集団越冬地で、毎年1,000羽のコハクチョウが越冬します。(10月中旬から3月下旬まで飛来)



■ アクセス

- 車
米子自動車道・米子ICから約35分
- バス(日の丸バス)
JR米子駅から内浜線境港行きで約20分/バス停「乗越」下車、バス停から徒歩20分
- 飛行機
米子空港より車で約20分



■ 連絡先

(財)中海水鳥国際交流基金財団
米子水鳥公園
鳥取県米子市彦名新田665
TEL(0859)24-6139
FAX (0859)24-6140
Homepage :
<http://www.yonagomizudorikouen.or.jp/>



湊山公園(中海八景選定委員会提供)

コラム 古代の中海(1)

中海は、日本の歴史の中で文献記録として出てくるものなかでは、もっとも古い湖のひとつです。「湖」とはいても、古代には現在の弓ヶ浜半島(「夜見嶋(よみのしま)」)の付け根の部分はまだ浅海ながら外海とつながっていたこともあり、「入海(いりうみ)」という名前で登場します。その文献とはもちろん出雲国風土記で、登場する地名で現在のどこに当たるのか明らかかなところとしては、ほかにタコ嶋(大根島)、ムカデ嶋(江島)、火神岳(大山)などがあります。

松江市の東部から望む中海の光景は、紫に霞む大山を背にゆったりと波うち心むものですが、この景色は古代の人々にも賞でられていました。同風土記にこんな記述があります。「(松江市の)大海崎は、東西と北側は険しく木の生い茂った山に囲まれており、下手には堤がある。・・・その堤の南側には海が広がっている。堤と海との間には浜があり、東西が百歩(約180m)、南北が六歩(約10m)ほどの広さである。浜には松が生い茂り、渚は深く澄んでいる。ここにはしばしば近在の男女が寄り集う。楽しいひと時を過ごして家路につく人もあれば、楽しみが過ぎてそのまま家に帰ることを忘れてしまう人もいるほどで、よく宴会が催される場所である。(拙訳)」とまあ、中海の絶景を肴に男も女も明るいうちからしっかり飲んでいたわけですが、ときには午前様になるまで。その折には目の前の中海の幸が胃袋の肴になっていたであろうことは想像に難くありません。

その海の幸にはどのようなものがいたのかもはっきり記録されています。イルカ、ワニ(サメ)、ボラ、クロダイ、スズキ、コノシロ、シラウオ、ナマコ、エビ、ミル(海草)の名前が上がっており、中海が1300年前から沿岸の人々に豊かな恵みをもたらしていたことがうかがえます。

(島根T)



大海崎からの風景

編集・発行者

鳥取県西部総合事務所
生活環境局環境・循環推進課
鳥取県米子市稚町一丁目160
電話 (0859)31-9350
E-mail: seibu_seikatsukankyo@pref.tottori.jp
Homepage: <http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=69208>

鳥取県環境政策部環境政策課
鳥取県松江市殿町1番地
電話 (0852)22-5562
E-mail: kankyo@pref.shimane.lg.jp
Homepage: <http://www.pref.shimane.lg.jp/kankyo/>

記事募集

中海エコ活動レポートに掲載する記事、イベント情報、写真を募集しています。詳しくは、左記連絡先に連絡していただくか、ホームページをご確認してください。なお、投稿にあたっては出来る限り電子データで投稿をお願いします。